



編集・発行
県南教育事務所



「自立」と「共生」をめざして

西郷村教育委員会教育長 鈴木 且雪

西郷村教育委員会の基本理念は「自立」と「共生」です。この基本理念が文字として掲げられたのは、平成21年度の冊子「西郷村の教育」からのようですが、ずいぶん長きにわたって本村教育の基本となっています。村では今、これから先10年を見通した「第4次総合推進計画」を策定しています。そこで、今後10年を見通した教育委員会としての基本理念をどうするか検討する必要が生じ、いろいろと考えを巡らしたのですが、どうも「自立」と「共生」に変わるものが出てきませんでした。次期学習指導要領の改訂に向けて、文部科学省の教育課程企画特別部会が昨年の8月にまとめた「論点整理」の報告には、「社会的・職業的に自立した人間」とか「多様な人々と協働していくことができる人間」、さらには「自立と共生に向けた行動をとっていくことが求められる。」等々の文言が数多く見受けられます。つまり、次期学習指導要領において目指す教育の方向性として「自立」と「共生」は重要な要素となっているものと思われます。このことから、本村における今後の10年間を見通した教育の基本理念に「自立」と「共生」を掲げることが間違いでなく、これを本村の教育理念に掲げ続けてこられた加藤征男前教育長さんの先見性、本質を見抜く力のすばらしさに、感服するばかりです。

この理念を児童生徒や村民の具体的な姿として表れるようにするために、次年度の基本目標を「自らを高め、共によりよく生きるひとづくり」としました。その目標に迫るために、次の三つの視点を大事にしていきたいと思っています。一点目の視点は「やらされる」から「自分から進んで行く」ということです。アクティブラーニングということが言われていますが、どんなに教師側が苦勞しても、学び手である子どもたちが「主体的な学習者」として自ら学び取っていきこうという意識がなければ、受け身的な「勉強」から脱却することはできないでしょう。二つ目の視点は「他律」から「自律」ということです。第三者から「叱られる」「注意される」ことで自分自身を見直すのではなく、「自分に問いかける」ことを通して自分を客観的に見つめ、自らを正すことのできる「主体的な生活者」を目指そうということです。三つ目の視点は「利己」から「利他」ということです。どんなに自らを高めても、それを自分のためだけにしか使わないのでは、何の役にも立ちません。自分を他のためにどう役立てるのか、そのことを常に考えていくことができるのかが大事だと思います。この三つの視点を具体的な取り組みの中で目に見える形にしていくことで、「自立」と「共生」をめざしていきたいと考えています。

受賞おめでとうございます ～平成28年度教育・文化関係表彰～

□ 叙勲

○秋の叙勲（瑞宝双光章）

前西郷村教育委員会教育長 加藤 征男
前棚倉町教育委員会教育長 渡邊 勇喜

□ 文部科学大臣表彰

○教育者表彰 白河市立白河第二中学校長 面川 三雄

○地方教育行政功労者表彰

元泉崎村教育委員会教育委員長 本柳 功

○学校保健及び学校安全表彰

矢祭町立矢祭中学校学校歯科医 古張 武
鈴木 純子

○優秀教職員表彰 西郷村立羽太小学校教諭

□ 県教育委員会表彰

○学校教育功労者表彰

白河市立白河第一小学校長 角田彰三郎

白河市立白河第二中学校長 面川 三雄

○優秀教職員表彰

棚倉町立棚倉小学校教諭 中野久美子

白河市立白河南中学校養護教諭 坂内百合子

○永年勤続教職員表彰 小・中学校27名 県立学校7名

○教職員研究論文

特選 個人 白河市立小野田小学校教諭 荒井 智

入選 団体 塙町立塙小学校

奨励賞 団体 鮫川村立青生野小学校

○ふくしまっ子体力向上優秀校

塙町立塙小学校

○ふくしまっ子元気大賞

白河市立白河中央中学校

中島村立滑津小学校

西郷村立西郷第一中学校

○ふくしまっ子ごはんコンテスト学校賞

西郷村立羽太小学校 塙町立笹原小学校

白河市立五箇中学校 白河市立表郷中学校

西郷村立川谷中学校 塙町立塙中学校

○食育推進優秀校表彰 優秀賞 白河市立釜子小学校

特別賞 福島県立西郷養護学校

□ 県学校給食会表彰

○学校給食功労者

矢吹町立矢吹中学校栄養教諭 近内千由里

□ 県学校保健会表彰

○学校保健功労者

福島県立白河高等学校 学校薬剤師 石岡 弘

白河市立白河第二小学校 養護教諭 高田 智子

白河市立大信中学校 養護教諭 富永キク子

□ 県学校歯科保健優良校表彰

○優秀賞

西郷村立米小学校

西郷村立羽太小学校

鮫川村立鮫川小学校

白河市立大信中学校

白河市立大屋小学校

○優秀活動奨励賞

□ 福島県学校緑化コンクール表彰

○学校環境緑化の部

公益財団法人ふくしまフォレストエコライフ財団理事長賞

棚倉町立高野小学校

□ 福島県統計グラフコンクール表彰

○優秀学校賞

矢吹町立善郷小学校

矢吹町立三神小学校

夢と希望を育む県南の教育の推進

～学校教育課 平成28年度事業の成果～

「豊かな心の育成」

今、危惧していること。それは、県南域内の不登校児童生徒数の増加です。昨年同時期と比較し、小学校は1.5倍以上に増え、特に9月以降に急増しています。

どの学校も、先生方が本気になって不登校の未然防止や復帰に向けて取り組んでおられる姿に胸を打たれます。

それでも、不登校は増加しています。早期に、そして、組織的に対応していくことが最も大切なことです。担任の先生が一人で悩み、苦しみながら対応するものではありません。管理職のリーダーシップのもと、教育相談担当者のコーディネート力が大きな力となります。教育相談体制を充実させ、必要な援助を組織的に行っていくことがポイントです。義務教育課のホームページには、不登校対応資料 Vol.5「豊かな学校生活のために」～チームで切れ目のない援助を～が新しく掲載されました。ご活用ください。

まもなく春休みを迎えます。ぜひ、不登校が心配される子どもたちの心にどう寄り添っていくのかを組織的に相談してみてください。

新たな不登校児童生徒の出現がなくなるために・・・

復帰児童生徒が増えることを願って・・・

「確かな学力の向上」

2月8日（水）に第2回学力向上担当者等研修会を開催しました。前半は、今年度の「つなぐ教育」推進地域の中島村と鯉川村の実践報告を行い、後半は「成果の上がった自校の学力向上策」の発表・協議を行いました。

【「つなぐ教育」の実践報告から】

- 中島村・鯉川村とも、幼小中12年間のつながりをもった取組、共通実践が効果を上げている。
- 幼小中や学校、家庭、地域をつなぐための「共通の基盤作り」が大切である。
- 学校・家庭での実践事項をリーフレットやカレンダー、クリアファイル、下敷きなど常に目にできる形で配付し、意識を高めた。

【「成果の上がった自校の学力向上策」の発表・協議から】

- 各校で一番効果の上がった学力向上策を4つ切り画用紙1枚にまとめ、班ごとに発表・協議を行った。同じ課題をもとにした班構成にしたことで、お互いに参考になる取組を知り、話し合うことができた。
- 各校の画用紙を全て掲示したことで、各学校ごとの様々な取組や工夫を共有することができた。

この研修会での発表・協議の内容を、各校に持ち帰って伝達・協議することで、次年度の各校の研修や学力向上に役立てていただければと思います。

「健やかな体の育成」

ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトの各事業を活用し、健康課題である「体力低下」「肥満傾向児の増加」の改善のため、体力向上推進計画、食育全体計画に基づき各学校の特色を生かした実効性のある取組が見られました。

その結果、小学校5年生と中学校2年生で実施した「全国体力・運動能力等調査」では、県南の小学校5年生男女、中学校2年生男女の合計点が県合計点を上回りました。全国比では5割の種目(昨年度 23.7%)で上回り、小学校5年生女子と中学校2年生男子が合計点で上回りました。

また、福島県児童生徒の肥満に関する調査結果では、肥満傾向児の出現率が小学校女子、中学校男女で昨年の調査に比べて改善されました。さらに、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト「食習慣の改善のための専門家派遣事業」では、県南で34回の派遣があり、肥満の改善を目指した個別指導も充実してきている様子が見えます。

今後も、健康・体力の課題の把握とその解決を図るために、授業及び授業以外での取組、家庭との連携、自分手帳の活用など様々な視点から具体的な対策を練り、より一層組織的・計画的に子どもの健やかな体を育成する指導をお願いします。

「特別支援教育の推進」

インクルーシブ教育システム推進事業において、特別支援学校のセンター的機能を活用した相談・研修支援を実施してきました。

今年度は、担当する教員等の専門性の向上、校内支援体制の構築を図ることを目的に実施し、多くの学校において、ケース会議を通じた支援策の検討を行うことができました。担当する教員のみでなく特別支援教育コーディネーター、学年の教員、養護教諭、管理職等、関係者が参加し、子どもの立場から行動の背景要因を探り支援策を検討することで、よりニーズに応じた支援を実践することができました。支援策を自ら検討するという体験の積み重ねにより、個人の専門性の向上と各学校の支援機能の高まりにつながるものと考えます。

特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた指導支援の充実に向けて、今後も校内体制での支援をお願いいたします。

【県立盲・聾・養護学校校名変更のお知らせ】

(平成29年4月1日～)

- ・盲学校→視覚支援学校
- ・聾学校→聴覚支援学校
- ・養護学校→支援学校

地域と学校との協働体制を築く “地域学校協働本部”

～地域と学校の連携・協働の推進に向けて～

今後の学校と地域の協働のあり方を検討してきた中央教育審議会の答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」において、現行の「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」に一本化する方向性が示されました。

「地域学校協働本部」の第一の特徴は、これまで単独で行ってきた「放課後子ども教室」、「学校支援活動」や「土曜日の教育活動」などを結びつけ、総合的に実施していくことを目指しています。

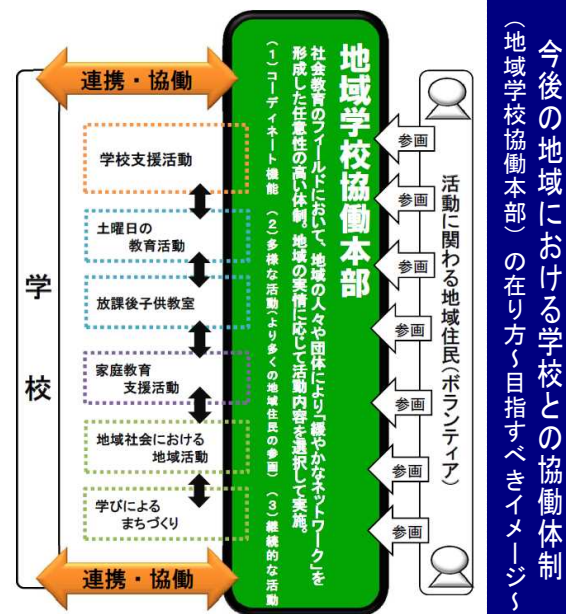
二つ目として、これまでの「学校支援地域本部」が、「学校支援活動」を行っていくための一方向のみの組織だったのに対し、「地域学校協働本部」では、学校が支援されるだけでなく、「地域貢献活動」も併せて行うことになります。学校と地域にそれぞれ双方向の流れを作り、地域と学校との連携・協働体制を築こうとするものです。

「地域学校協働本部」には、「地域コーディネーター」を置き、地域側の総合窓口となり様々な活動をつなげて地域の人的ネットワークを築いていくことになります。

「地域学校協働本部」を構築する単位は中学校区を想定しています。また、その校区の学校にはそれぞれ「学校運営協議会」を置き、学校側の「学校運営協議会」と地域側の「地域学校協働本部」が両輪として学校と地域が協働して、学校の教育活動の充実や学校を核とした地

域コミュニティづくりを目指します。

域内でも今後モデル事業として「地域学校協働本部」を設置して、地域と学校の連携・協働体制を築き、「地域とともにある学校」を目指す取組が展開される予定です。



小 学 校 紹 介

「130年の伝統」

白河市立白河第一小学校

明治19年7月2日、本校の前身、白河小学校が誕生して、今年で130年目を迎えました。それを記念して、航空写真の撮影や白一ハッピーまつり、白河文化交流館コミネスでの記念式典並びに音楽会等を開催しました。

これらの諸活動を通して感じるのは、130年間、積み上げられてきた白河第一小学校の伝統です。本校の教育目標である「自分に問いかけ、自分で考え、自ら進んで行動する、健康で品性の高い子ども」の言葉の重み。さらに、「学びます 鍛えます 磨きます」というめざす児童の姿。子どもたちは日々、今の自分を振り返り、さらなる高みへと努力し続けているのです。

築き上げられた130年の伝統。それは、決して奇をてらった派手な取組ではなく、当たり前のことを当たり前に、学校全体として、共に地道に取り組んできたものの積み重ねです。時代は変われども、やるべきことを、当たり前、地道にやり続ける。本校で大事にしているのは、そういった「不易」の部分なのです。



「えがお かがやき はばたく子」

棚倉町立棚倉小学校

本校は、今年で145歳になる県内でも有数の歴史を持つ学校の1つで、丹羽長重によって築城された亀ヶ城に隣接しています。桜祭りでは鼓笛パレードを行ったり、生活科で昆虫や植物を採しに行ったり、6年生が歴史の学習で訪れたりとお城との関わりも大きな学校です。

「えがお（体）かがやき（知）はばたく子（徳）」を教育目標に、児童一人一人のキャリア発達を目指しています。体力の向上を目指し、今年度からマラソントイを復活させたり、楽しみながら体力づくりを合言葉に施設の充実を図ったりしています。また「命」「歯」「肥満」「性」「喫煙」指導を養護教諭や保健師等とのTTで系統的行っています。学力向上では、「定着確認シート学習計画表」をもとに1週間前から計画的に学習を進めたり、退職校長会の協力のもと放課後学習を行ったりしています。心の教育では、「棚倉っ子宣言」「いじめゼロ宣言」を通して規範意識の高揚と思いやりの心の育成を図っています。



今年度を振り返って



「豊かに伝える」

福島県立西郷養護学校
校長 眞部 知子

子ども達の成長を願い、笑顔にその表出を見ようと、先生方と力を合わせ教育に取り組んだ1年でした。そして今、子ども達のたくさんの笑顔を発見することができました。今年度、本校教育で大切にしてきたのは、「コミュニケーションの力」を高めることです。それは、子ども達がさまざまな気持ちや願いを表出し、それぞれの方法で豊かに伝えることができる力です。子どもの豊かな表情や行動、言葉から多くのことが伝わってきます。

今後も、豊かに伝えていることを発見できる目と感性を先生方と共に磨きながら、特別支援教育の専門性として充実を図っていきます。



「和顔愛語」

鯉川村立青生野小学校
校長 藤田 篤

ある日の出来事です。子どもたちが椅子に座り、輪になって楽しく会話をしていました。その時、A子さんだけ遅れてやって来ました。みんなは声を掛けたのですが、あまりにも楽しい様子に戸惑ったのか、輪の中に入らず遠慮するA子さん。すると、輪の中にいた一人の子が、「じゃ、俺たちがそっちに行くよ。」

と笑顔で言い、みんなで椅子を持ってAさんの周りに移動するのです。そんな「和顔愛語」の姿に、「教育の原点」を垣間見ます。これからも、「青生野の強み（よさ）」を生かした教育を実現します。



「感謝の気持ち」

泉崎村立泉崎中学校
教頭 原田 貴志

朝、まだ誰もいない校舎を一回りするのが好きになりました。「今日も一日よろしく」と出発前の機関士ののような気持ちで回るので。

新任教頭のスタートが泉崎中であったことに感謝しております。地域の方をはじめ職場の方々を支えられ、いろいろ教えて頂いた一年間だったからです。教頭として至らぬことばかりですが、「何とかなる。何とかする。」精神で一日一日集中してがんばりたいと思います。

さて、機関士は釜の火を消さねばなりません。「今日もお疲れ様」と校舎を巡視して長い一日が終わるのです。



「小野田の校歌のように」

白河市立小野田小学校
教頭 舟木 裕子

「学校山高い 庭広い アカシヤ プラタナ明るくしげる」小野田の校歌は、本校の児童のように明るく快活な歌いだして始まります。先日、地域の集まりの際、来年度子どもが入学するという保護者の方にお会いしました。卒業して数十年経っているにも関わらず、校歌を歌い、「小野田の校歌をずっと歌い続けられるように、小野田を残したい。」と話しておられました。

協力を惜しまない地域の方々、豊かな自然、素直な子ども達に囲まれながら、小野田の校歌のように快活に全力で仕事にあたっていこうと思います。

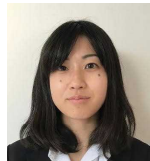


「山峡」

福島県立修明高等学校鯉川校
教諭 石本 淳

体育を好きになってもらうために、スポーツへの関心を抱いてもらうために、奮闘してきた初任1年目でした。すべての生徒が楽しめるような運動種目の選択や教材の工夫を行い、年度当初は見学しがちだった生徒が体育の授業で自己の役割を果たしつつ、楽しく運動している姿をみると、教員としての使命を実感できる瞬間でした。

「教育とは、学校で学んだことをすべて忘れたその後に残っているものだ。」有名な物理学者の言葉であり、生徒が高校卒業後も生涯を通じて運動を楽しめる素地を養えるように今後も自己研鑽に努めていきます。



「初任者としての1年を振り返って」

福島県立西郷養護学校
教諭 佐藤 眞美子

故郷秋田の鳥海山のように雄大な那須連邦を臨み、期待と不安で胸を膨らませて赴任しました。子どもと学ぶのは楽しいが、障がいに応じた指導はどうあれば良いのか、授業づくりの難しさに悩みを抱える日々でした。「あなたは、何事も定着すれば力を発揮できる人です。」小学校時代の恩師の言葉と、子どもの素直で明るい笑顔が、私の支えとなっています。日々の研修の中で、指導教員や諸先輩方の丁寧な指導と励ましの言葉を頂き、少しずつ子どもとの関係が築けてきました。今後も特別支援教育の教師としての自覚をしっかりと持ち、自らの指導力の向上に全力で邁進していきたいと思います。